

県立高校将来構想の概要

1 将来構想策定にあたって

(1) 策定の趣旨

社会の変化や生徒のニーズの多様化、少子化の進展に対応し、中長期的視点に立って、本県高校教育の一層の充実を図るため、県立高校の将来構想を策定する。

教育活動の充実
信頼される学校づくり

特色ある学校づくりと学校・学科の再編整備
教育条件の整備

(2) 構想の期間

平成17年度から平成26年度まで

(3) 構想の基本的な考え方

生きる力を育む教育の推進

確かな学力の育成、豊かな人間性や社会性、健やかな体の育成に取り組むなど、生徒一人ひとりが21世紀を心豊かにたくましく生きる力を育む教育を推進する。

社会の変化への対応

国際社会の中で活躍できる人材の育成、情報機器の活用能力の育成、男女共同参画社会の実現に向けた意識の形成など、様々な社会の変化に対応した教育を推進する。

生徒の多様化への対応

多様な生徒に対して、よりの確に対応した教育を推進するため、選択幅の広い教育課程を編成するなど、多様で柔軟な教育システムづくりを推進する。

生徒減少への対応

再編整備を進めることにより、選択幅の広い教育の推進や活力ある教育活動の展開ができるよう、高校教育の質的充実を図る。

2 県立高校の現状と課題

(1) 県立高校の現状

国際化、情報化など、社会情勢の急激な変化に伴い、生徒の興味・関心や進路希望、価値観が多様化する一方、少子化に伴う学校の小規模化により、学校の活力が低下したり、生徒が互いに切磋琢磨する機会が少なくなるなどの課題が生じている。

(2) 県立高校の課題と目指すべき方向

より質の高い教育が提供できる教育環境や教育条件の一層の整備・充実を図るため、盲・聾・養護学校等との連携も含め、次のような方向で学校づくりを進める。

生徒の多様なニーズに対応した特色ある学校
生徒や教職員が生き生きと活動する活力のある学校
地域からの信頼に応える開かれた学校

3 教育活動の充実

(1) 確かな学力を育成する教育の充実

確かな学力を育成するため、少人数指導などのきめ細かな教育活動を展開するとともに、生徒に学ぶことの楽しさを体験させ、学ぶ意欲を高めるなど、質の高い授業の実践を目指す。

(2) 豊かな人間性を育む教育の充実

自律心、思いやりの心、礼儀、生命を大切にする心、郷土を愛する心など、豊かな人間性を育むため、道徳教育を充実させるとともに、多様な体験活動の推進を図る。

(3) 健やかな体を育む教育の充実

生涯にわたって心豊かで充実した生活を送るため、健康・体力づくりの推進や運動部活動の活性化など、健やかな体を育む教育の充実に努める。

(4) 進路指導の充実

進路に関わる様々な体験的学習や発達段階に応じた組織的・継続的なキャリア教育を推進するとともに、ガイダンスやカウンセリング機能の充実など、進路指導体制の整備を進める。

(5) 教育相談体制の充実

様々な悩みやストレスを抱える生徒にとっての「居場所づくり」に努めるとともに、教育相談体制や教員研修の充実を図る。

4 特色ある学校づくりと学校・学科の再編整備

(1) 特色ある学校づくり

高校教育の質をより高めるための特色づくりを推進するため、学校・学科の再編整備に取り組む中で、新しいタイプの学校・学科や選択幅の広い学習が可能な学校・学科の設置を進めるとともに、生徒のニーズや地域の状況の変化を踏まえながら、学校・学科の設置や適正な定員設定などに努める。

<全日制課程の方向性>

【普通科系の学科】

教科・科目の選択幅が拡大できるよう、再編統合による学校規模の拡大を進める一方、普通科コース、理数科などは、その在り方の見直しも含めて検討する。

また、単位制の拡充や教育課程の工夫・改善をさらに進め、生徒や保護者の大学等への進学ニーズに応えられるよう、学力向上を目指した取組みを強化する。

【専門学科】

選択幅の広い学習が可能となるよう、商業高校と工業高校の統合など、専門学科間の再編統合、総合選択制の導入や地域産業の特性やまちづくり等を視野に入れた新たな教育内容の導入を進めるとともに、地域人材の活用や地域の人々への学習機会の提供など、地域に開かれた学校づくりを推進する。

【総合学科】

生徒の多様な能力・適性等に応じて、学びたい科目を主体的に選んで学習できる多様な教育課程を編成するとともに、多様な学習ニーズに応じた教科・科目の開設やガイダンス機能の充実など、進路希望等に応じた学習が可能となるよう支援体制を充実する。

< 定時制・通信制課程の方向性 >

【定時制課程】

昼間部の増設、夜間部との併設による独立校の設置、総合学科の設置の検討、単位制の拡充や社会人聴講制度の導入など、開かれた学校づくりを進めるとともに、近隣の学校間で段階的な統合を図るなど、地域バランスに考慮した適切な配置を検討する。

【通信制課程】

多様な経歴や背景をもつ生徒に幅広く対応できるよう教育内容を一層充実するとともに、平日スクーリングの拡充やインターネットなどの活用についても検討する。

< 中高一貫教育の推進 >

これまでの成果や児童生徒、保護者のニーズなどの状況を踏まえ、今後の中高一貫教育の推進について、地域バランスも考慮しながら検討する。

< 全日制単位制の拡充 >

ガイダンス機能の充実により、生徒の学習意欲の向上や進路希望に応じた成果も見られることから、今後、全日制課程普通科において単位制を拡充する方向で検討する。

(2) 学校・学科の再編整備

再編整備の必要性

特色ある学校づくりを推進し、選択幅の広い教育の推進や活力ある教育活動の展開、豊かな人間性や社会性の育成など、高校教育の質をより高めていくためには、一定の学校規模の確保を目指し、再編整備を進めることが必要である。

望ましい学校規模

開設科目数、教員配置数などから、1学年4学級から8学級とする。

再編整備の進め方

ア 1学年3学級以下の小規模校の再編統合を基本として、望ましい学校規模の確保を目指し検討する。

なお、1学年3学級の中高一貫教育校及び定時制課程併設校の学校規模については、学校全体の学級数を考慮する。

イ 1学年2学級の学校で、生徒の通学実態等から再編統合が困難な場合は、生徒の通学の利便性等に配慮して、再編後の最小学校規模を1学年2学級(80人)とし、その確保が見込まれる場合には、本校として維持運営する方向で検討し、その確保が見込まれない場合には、分校化を検討し、その際の最小規模は1学年1学級(40人)とする。

こうした検討にあたっては、次に示す生徒の通学や入学の状況を総合的に勘案することとする。

再編統合により、半数以上の生徒が通学に60分程度以上要することとなる場合
当該高校の入学者に占める地元中学校からの入学者の割合が50%を超えている場合

ウ 全日制課程を置く分校については、当該分校の入学者に占める地元中学校からの入学者の割合が50%を下回り、将来的に定員を満たすことが見込まれないと判断される場合、募集停止を検討する。

エ 再編整備にあたっては、普通科間、普通科と専門学科間、商業と工業など専門学科間の再編統合を検討し、また、当該校生徒の地域からの入学状況や普通科、専門学科の地域の定員配分を考慮しながら、通学区域全体の学校間で定員の調整を検討する。

再編整備後の取扱い

再編統合を実施した学校についても、今後下記のような状況が生じた場合には、分校化、または募集停止を検討する。

ア 分校化

1 学年2学級規模の学校で、3年連続して、入学者が定員に達しない状況があり、将来的にも定員を満たすことが見込まれない場合

イ 募集停止

1 学年1学級規模の分校で、3年連続して、全学年の生徒数が100人に達しない状況にあり、将来的にもこれに達することが見込まれない場合

(3) 通学区域

普通科の通学区域については、当面現行の7通学区域とするが、学区外からの入学枠を拡大する方向で検討し、将来的には、県下全域ということも視野に入れる。

5 信頼される学校づくり

(1) 学校運営の活性化と開かれた学校づくり

学校評価システムの導入や開かれた学校づくりの推進など、保護者や地域の人々の学校運営や教育活動への参画による学校運営の活性化を図る。

(2) 安心・安全な学校づくり

事件や事故の発生を防止し、生徒を犯罪の被害から守るため、学校の安全管理体制等の整備や教職員等の危機管理意識の向上などに努める。

6 教育条件の整備

(1) 教職員の資質能力の向上と教職員の適正配置

多様な生徒に応じて、一人ひとりの個性や能力を生かした教育を推進するため、教職員の資質能力の向上と教職員の適正な配置など、人的な面での教育条件の整備を進める。

(2) 学校の施設設備の整備

老朽校舎等の改築や耐震性能の向上を図るための補強工事、バリアフリー化の推進など、時代の要請や様々な生徒のニーズに対応した学校施設の計画的な整備や教育内容・指導方法の多様化や国際化、情報化などに対応した施設・設備の充実に努める。

(3) その他

再編統合の実施にあたっては、通学の便宜が図られるよう関係交通機関等への働きかけを行うとともに、奨学金制度の周知・拡充などの支援について検討する。

7 将来構想の推進

構想の趣旨を踏まえ、全教職員が課題意識を持って、この推進に取り組むとともに、今後、これを年次的・計画的に進めるため、特に、学校・学科の再編整備については、現在、学校間連携を実施している学校など、各学校の状況を踏まえながら、実施計画を策定し、着実に取り組む。